

神よ、わたしたちに悔い改めと憐れみをお与えください。

神よ、わたしたちに慰めと希望をお与えください。

歴史の主である神よ、今年も「沖縄慰霊の日」を迎えます。沖縄戦は、対馬丸学童疎開船撃沈による子どもたちの犠牲に始まり、十・十空襲、3ヶ月以上にも及ぶ地上戦と、多くの住民が巻き込まれ、犠牲となった戦争でした。あれから69年目を迎えます。

長い年月が経過しても戦争の悲しみはぬぐえないものです。毎年、平和の礎に刻まれた名前をさすりながら涙するお年寄りの姿が映し出されます。生きていればどんな人生であったであろうかと、家族のものであれば思い描くものです。無残にも絶たれた命に無念さが残ります。戦後、その悲しみをめぐう努力はなされてきたのでしょうか？

沖縄は、戦後、自らの涙をぬぐおうと、琉球の芸能文化を取り戻し、歌や三線、踊りや芝居を復活させ、一生懸命に「笑おう」としました。戦を忘れて前を向こうとしました。しかし戦争を起こしたこの国は、沖縄の涙をめぐうどころか、沖縄を切り捨て27年間の米軍統治下を許し、自らは日米安保の下、日本国憲法の下で安泰に、「平和」に暮らしています。米軍基地が多くを占める沖縄は、常に米国の戦争に巻き込まれ、米兵の狂気に曝され、戦争の音、戦争の臭いが蔓延し続ける中で、「戦後」の見えぬ状況の下、沖縄の涙はぬぐわれぬまま枯れ果てています。

命の主である神よ、傷つけ合っているわたしたちの、

この世界と人々の叫びにあなたは耳を傾けてくださいます。

わたしたちも耳を傾け、心を込めて痛みと嘆きの声を聴くことができますように。

神よ、あなたは今も流されている人々の血と涙に目を止めておられます。

わたしたちも目を開き、心を込めて絶望と悲しみの姿を見つめることができますように。

神よ、あなたは慈しみをもって小さな者たちの命を守り、育ててくださいます。

わたしたちも、すべての命をあなたのものであり、慈しむことができますように。

神よ、あなたはいつも豊かな愛と赦しをもって、わたしたちを招いてくださいます。

わたしたちが、あなたの愛と赦しの力によって、和解のために働くことができますように。

神よ、わたしたちを平和のために用いてください。

聖霊によってわたしたちを力づけ、道を示してください。

沖縄は今なお、暴力の根源である軍事基地が存在し、

今また新たに差別と不条理な現状を押し付けられています。

神よ、平和を愛する人々が、勇気と希望を失わないようにお支えください。

非暴力を持って闘おうとされる人々に、なお主のお支えがありますように。

主のご栄光がさらに平和をつくり出す人々の上にありますように。

恵み深い神が、戦争の暴力、国家の権力、経済の抑圧の犠牲となった人々に癒しを、

悔い改める人々に赦しを、平和を求める人々に真実の和解をお与えくださいますように。

わたしたちの主、イエス・キリストの御名によってこの叫びと祈りをあなたに捧げます。

アーメン

普天間バプテスト教会の神谷武宏牧師による「沖縄の祈り」です。多くの方と共有していきたいと思っております。また、文中、あまりなじみの無い言葉（例：十・十空襲）は、ぜひ皆様に調べてみて、学び合ってください。